



講演会参加費

会員：8,250円 / 非会員：11,000円 / 東北大学関係者：無料

※参加費は税込になります

2026.8.2 日

10:00～12:30 シーズンズセミナー

12:30～13:30 ランチョンセミナー

13:30～16:30 サテライトセミナー

東北大学歯学部 歯学研究科臨床研究棟

〒980-0872 宮城県仙台市青葉区星陵町4-1

日本顕微鏡歯科学会 『サテライトセミナー&第24回シーズンズセミナー』

2026年8月2日、梅雨明け目前の小雨の降る日曜日、日本顕微鏡歯科学会サテライトセミナーならびに第24回シーズンズセミナーが宮城県仙台市の東北大学歯学部 歯学研究科臨床研究棟(C棟)1階 大会議室で行われた。あいにくの悪天候ではあったが、61名の参加者で会場はほぼ満席となった。

■ 第24回シーズンズセミナー

発表者

○ Dr. 河野通史

(河野歯科医院)

正中離開に対してダイレクトボンディング修復を行なった1症例

○ DH 山泉 弥智世

(医療法人 ひなデンタルクリニック)

見えることで変わる歯科衛生教育

○ Dr. 鍵福 祐子

(山中デンタルクリニック)

上顎左側側切歯欠損に対してシングルリテーナーオールセラミック接着ブリッジを用いた一症例

○ Dr. 高橋 慶三

(ヒロ横浜デンタル)

石灰化MB2 根管に対するCBCT とマイクロスコープ併用の有用性 ～1 症例報告～

○ Dr. 本田 和寛

(ほんだデンタルオフィス)

マイクロスコープを用いた小臼歯隣接う蝕のCR 充填処置の有用性

○ Dr. 櫻井 善明

(ネクスト・デンタル ソレイユメインテナンスクリニック)

世界的に見た日本のマイクロDH の現状

会員発表では、歯科医師5名と歯科衛生士1名が登壇し発表を行った。

発表内容は、歯内療法、修復・補綴治療における臨床症例の他、歯科衛生士における学生教育や世界との比較と多岐にわたるテーマとなり、顕微鏡を活用することによる意義や有用性について、様々な観点から再認識することができた。各演者の質疑応答においても、各分野の第一人者の先生方からのアドバイスの他、会場参加の皆様からの質問、感想など活発な意見交換がなされた。

■ ランcheonセミナー

高根弘二 様(株式会社パッショネ 代表 / G TECH JAPAN)

AIと歩む、歯科のこれから。

～凄まじい進化が進むAIで変わる歯科業界と、医療従事者の価値とは～

シーズンズセミナー終了後は、ランcheonセミナーとして「AI と歩む、歯科のこれから。～凄まじい進化が進むAIで変わる歯科業界と、医療従事者の価値とは～」というテーマで、株式会社パッショネ代表の高根弘二氏に登壇いただいた。歯科におけるAIの活用、その現在と未来について、活用法に課題はあるものの大きな可能性が示唆された。

難症例や髄床底の精査といった特定のステップだけでなく、麻酔やラバーダム装着といった日常の基本処置であえて顕微鏡を活用することで、患者に無痛治療と高い安心感を提供できると語られました。

■ サテライトセミナー

講師

須藤享 先生

東北大学歯学研究科歯科保存学分野 臨床准教授

医療法人くすのき 南光台歯科医院 院長

「見える」から「できる」マイクロエンドへ

齋藤正寛 先生

東北大学大学院歯学研究科エコロジー歯学講座歯科保存学分野 教授

顕微鏡歯学における顎骨免疫学の重要性について

座長

三橋晃 先生

鎌倉デンタルクリニック 院長

午後からはサテライトセミナーの教育講演として、東北大学歯学研究科歯科保存学分野臨床准教授の須藤亨先生（宮城県仙台市開業）と東北大学大学院歯学研究科エコロジー歯学講座歯科保存学分野教授の齋藤正寛先生に登壇いただいた。

須藤先生の講演では非常に多くの臨床症例をもとに、演題である『「見える」から「できる」マイクロエンドへ』を実践するには「感染制御を達成できる環境づくり」が重要であることを繰り返し強調されていた。

続く、齋藤先生（東北大学）には「顕微鏡歯学における顎骨免疫学の重要性について」と題し、根尖性歯周炎の治療抵抗性に関わる免疫メカニズムについて最新の知見を発表いただいた。終盤には、「エンドンティクスの再定義：それは「骨髄」を治す治療技術である」との見解を示され、顕微鏡歯学は歯科に留まらず、全身の健康寄与へ大きく貢献しうる可能性を秘めた分野であることを学ぶことができた。

サテライトセミナーとシーズンズセミナーの同時開催ということで長時間の開催となったが、歯科医師や歯科衛生士のみならず臨床研修歯科医や歯科学学生と幅広く多くの皆様に参加いただき、さらには臨床・研究・教育と多岐にわたる内容を共有できる時間となったことは、日本顕微鏡歯科学会ならではの非常に貴重な機会であったと感じた。

次期の日本顕微鏡歯科学会第23回学術大会・総会は、2027年4月9日（金）～11日（日）に、再び宮城県仙台市で開催されることも発表され、これまで以上に多くの参加者によるますますの盛会を祈念したい。

（文責：医療法人社団土田歯科医院 土田健太郎）





